

報告書（案）

2011年9月21日

長良川河口堰検証専門委員会

長良川河口堰検証専門委員会 報告書（案）

目次

はじめに

- 1 長良川河口堰建設・運用までの経緯
 - 1-1 構想から計画、実施にいたる経緯
 - 1-2 目的と効果についての事業者側の説明と疑問・批判
- 2 検証：環境
 - 2-1 水質
 - (1) 栄養塩
 - (2) 浮遊藻類
 - (3) 公共用水域の環境基準
 - (4) 河口堰上流の溶存酸素
 - (5) 河口堰下流の溶存酸素
 - (6) 水道水の着臭
 - (7) トリハロメタン前駆物質
 - 2-2 堆積物
 - (1) 粒度分布、有機物含量、酸化還元電位
 - (2) 有害物質
 - 2-3 底生生物
 - (1) シジミ類
 - (2) ゴカイ類
 - (3) ベンケイガニ類
 - (4) モクズガニ
 - (5) ユスリカ等
 - 2-4 魚類
 - (1) アユ
 - (2) サツキマス
 - (3) その他の回遊魚・汽水魚類群集
 - 2-5 植生
 - (1) 植物相
 - (2) ヨシ群落
 - 2-6 まとめ
- 3 検証：利水
 - 3-1 開発水利権の目的変更と地域変更
 - 3-2 開発水利権の実際の使用量
 - 3-3 フルプランにおけるダム供給能力の低下の強調
 - (1) 2004年フルプランにおける供給能力
 - (2) 少雨化傾向の検証
 - (3) 河川流量の減少傾向の検証

- (4) ダム供給能力の低下傾向
- (5) ダム供給能力の低下傾向への愛知県の対応の検討

3-6 水道原水としての水質の適格性

4 検証：治水・塩害

4-1 治水計画の検証

- (1) 浚渫の必要性
- (2) 浚渫後の土砂の堆積
- (3) ブランケット工の適切性

4-2 治水効果の検証

4-3 塩害対策の検証

- (1) 講じられてきた塩害対策
- (2) 長良川河口堰の塩害防止機能

5 検証：費用負担

- (1) 計画時点での費用
- (2) 計画時点での便益
- (3) 利水便益は発生したか

6 開門調査の実現に向けて

6-1 開門調査の必要性

6-2 開門すれば何がどう改善されるか

- (1) 水質
- (2) 堆積物
- (3) 生物相
- (4) 植生（ヨシ帯）
- (5) 景観、人と自然との付き合い

6-3 開門調査への支障と解決策

- (1) 利水の代替性
- (2) 塩害の可能性
- (3) 堆積物流出の漁場環境への影響

7 どのように開門するか

- (1) 開門についての意見
- (2) 開門方法および調査期間

8 開門して何を調査するか

おわりに